「楽しい＆エコ」なくらし、いっしょにはじめましょ♪

季刊 えこびと

第8号 2012.9月

特　集：　映画「幸せの経済学」上映会

会員突撃インタビュー（河合志郎さん）
とよたのまちネタ紹介（矢作川天然鮎感謝祭）

このミニ冊子は持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現を目指す
NPO 法人とよたエコ人（びと）プロジェクトが発行しています

特集：映画『幸せの経済学』上映会

７月 21 日（土）の午後、映画『幸せの経済学』の上映会を開催しました。参加者 56 人。会場は、豊田市福祉センター。世界中の環境活動家たちが、これからの「豊かな暮らし」について語る、68 分間のドキュメンタリー映画です。

映画では、現在主流のグローバリゼーションではなく、それぞれの地域での人のつながりや地産地消を中心としたローカリゼーションを進めることによって、「幸せ」な社会がつくれると説いています。

映画の視聴後は、５人程度のグループになって、簡単な自己紹介と映画の感想を共有し、「幸せってなんだろう？」と話し合いました。当日の発表内容やアンケートの結果を抜粋して紹介します。

●参加者の意見・感想

・グループで話し合えたことが何よりよかった。みなさん、いろいろ真剣に考えていらっしゃるんだとわかった。

・話し合いで、違う価値観に出会えて面白かった。ご年輩のみなさんにとっては健康が「幸せ」の大きな要素だけれど、私たち若者にとっては、健康はあたりまえすぎて見落としていた。あたりまえと思うか、ありがたいと思うかの違いが、「幸せ」を決めるのかも。

・日ごろ、「幸せってなんだろう」と考えることはない。あらためて

考えてみて、新鮮だったし、ちょっと疲れた。

・今、農山村に移住して、ローカリゼーション、顔の見える関係の中で暮らしている。もともと田舎が嫌で、都会に出て働いた後、今度は以前よりもっと田舎で暮らしている。うなずきながら映画を見た。

・意識の変化も大事だと思うけれど、実践が大事だと思う。どんな風に実践していけるか。

・グローバリゼーションが今、世界中で注目されていますが、これが私たち（＝世界）を崩壊していることに気付かせて頂きました。

・ローカリゼーションを地域政党でおこそう。

・あたりまえと思っていた経済、生活、価値観をたたきわられた様でした。

・映画がとても良かった！　たくさんの人に見て欲しいと思う。

・「幸せ」ということを、あらためて考えた。

・映画は身につまされる。現代のひずみがよくわかった。

・ローカリゼーションが生む“幸せ”を多方面から知ることができた。

・映画を見て色々納得できました。これからの考え、生き方のきっかけになればいいと思います。

・ひとりでも多くの方が、地球の現状がどこに向かって進んでいるのか把握し、地球のエネルギー、資源を大切にし、自然と調和した生活、自給自足とわかち合いを、の意識になることが必要と思います。

・自分の人生観、やってきたことが正しかったのかどうか、考えさせられた。団塊世代で右肩上がりの中で生活してきてよかったか？

●エコ人の理事＆職員のふりかえり

・話し合えて良かった、という声がたくさんあった。今日はこれでおしまいだけれど、また延長戦をやればいい。みんなで盛り上げていきましょう。

・映画を見て理想的だと思っても、現実とのギャップが大きすぎて身動きがとれない人が多いと思う。実際には、グローバリゼーションとローカリゼーションの融合で進めていけばいいのではないか。

・「あなたは幸せですか？」と聞かれて、幸せだと即答できる人なんてほとんどいない。大きな不満の無い状態で、ほどほどかなあと思えて、あ～、これって幸せかなあ、というのが幸せかなあ。

・夜、眠る前に、家族の顔を見て、１日を思い返して、無事な１日に感謝する。それだけでというか、それこそが本当に幸せなんだな～とあらためて思った。

・今日の参加者のみなさんは、もともと意識の高い人たち。みんなで「幸せってなんだろう」と話し合うなんて、普通じゃできない。今日の上映会はエコ人らしくていいと思うけれど、もっと普通の人たちに響く企画もやりたいな。

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

第４回総会を開催しました♪

7月 21 日（土）の午後、上映会に先立ち、「とよたエコ人プロジェクト」の第４回総会を開催しました。出席された会員のみなさんからひとことずつ貴重な意見や感想をいただき、ありがとうございました。時間がなく、十分におこたえできず、すみませんでした。次回はみんなで話し合えるような進行ができればと思います。

今後ともみなさま、よろしくお願いします。　（小泉達也）

地域に広がれ♪　かえっこバザール

７～８月にかけて、eco-T の主催・協力による「かえっこバザール」を３回、開催しました。企業のイベント（7/8、トヨタ EX 会）での開催、交流館のイベント祭り（7/14、井郷交流館サマーフェスタ）での開催、そして eco-T での久しぶりの開催（8/18）でした。

トヨタ EX 会イベントでは、エコクイズも大人気！

井郷交流館サマーフェスタでは、地域の人たち自身が運営メンバーを務めました

eco-T での開催では、活動するワーキンググループがそれぞれ、ユニークなワークショップを展開。劇団めぐり座のコーナーでは、子どもたちが元気に、劇のセリフや早口言葉に挑戦していました。

どの会場でもかえっこは大人気！　笑顔がいっぱいでした！

子どもたちが身近にリユースを体験できる機会です。これからも、どんどん地域に広がっていくとうれしいなと感じました。　（福間陽子）

おいしい、楽しい、緑のカーテン収穫祭開催

私たちが eco-T で実践中の「緑のカーテン」。実行委員が交替で毎日お世話をして、立派な「緑のトンネル」ができあがりました。そして、８月 25 日（土）に「収穫祭」を開催しました。

まずは、緑のトンネルでゴーヤを収穫。そのゴーヤをメンバーが各々、得意とする料理に腕を振るい、たくさんのメニューのできあがり！　ゴーヤのお茶、ゴーヤジュース、ゴーヤチャンプル、ゴーヤの佃煮、ゴーヤサラダ、ゴーヤ天ぷら、ゴーヤかりんとう・・・まさにゴーヤのフルコースです。そこに、事前に収穫しておいたかぼちゃや、持ち寄った他の食材のメニューも加わりました。大皿に盛りつけ、テーブルに並べ、バイキング形式の食事会の開始です♪

食事をしながら、自宅での緑のカーテンの取組みを順番に発表しました。写真を持ってきた方、お孫さんが書いた絵を披露してくださった方など、楽しくにぎやかな収穫祭となりました。お皿の料理はいつの間にかきれいになくなり、みんなで後片付けをして幕を閉じました。

来年、機会がありましたら、ぜひみなさんも参加してくださいね。

（板倉三枝子：緑のカーテン実行委員会）

直管形 LED ランプ搭載照明器具 共同購入キャンペーン、準備中！

小規模事業所向け

愛知県地球温暖化防止活動推進センター、豊田商工会議所青年部、豊田市、豊田市駅前南開発（株）などと共働して「とよた・あいち省エネで元気な事業所コンソーシアム」を昨年から組織し、小規模事業所のエコ活動の推進と地域活性化に取り組んでいます。

昨年度は 35 事業所が登録し、電気使用量の削減に取り組みました。年間を通して 3.1%、CO_2 換算で 10,405kg を削減、これは一般家庭の２世帯が１年間に排出する二酸化炭素量に相当します。特に ８月は 17.1%も削減することができました。

今年度は、さらに取り組みを広げようと「さんしゅうECO倶楽部」を組織し、登録事業所を拡大するとともに、電気使用量の削減方策も充実させています。その一つが「LED 照明器具の共同購入」です。

無駄なスイッチを切るという節電の基本から一歩進んで、電気使用量の少ない機器に交換しようと登録事業所に呼びかけます。同じ器具を注文することで価格をさげることができ、工事は青年部の電気工事会社のグループ「豊田電気マン倶楽部」が担当することで、信頼関係も生まれます。

現在、企画の最終調整中。次号では結果を報告できると思います！

（坂本竜児）

趣味の『アユ釣り』から、環境活動へ

会員突撃インタビュー（第７回）

今回のゲストは、河合志郎（かわいゆきお）さん。eco-T での活動の他、エコライフ倶楽部「とよた省エネ共和国」の代表を務めるなど、積極的に環境活動にとりくんでいらっしゃいます。

Q. はじめに、河合さんの趣味はなんですか?

A. アユ釣りです。30 年、続けています。昔は一日に 55 匹釣ったこともありましたが、今はがんばっても一日 10 匹釣れるかどうか。アユの数が随分減ってしまいました。環境問題もあるとは思いますが、稚アユに病気が蔓延したことも一因です。ホームグラウンドは巴川ですが、ときには紀伊半島や新潟、伊豆半島まで行くこともあります。アユ釣りは奥が深く、アユの話になると止まりません(笑)。

アユ釣りの日は、朝６時半頃から川に入ります。午前９時過ぎには、家庭排水の洗剤の泡が流れ込んでくるのがわかります。環境活動に携わるきっかけも、アユを通じて 30 年間川に入り、川の汚れ具合の変化や、魚が少なくなったのを感じてきたからです。

Q. 最近、心に響いたことや感動したことを教えてください。

A. エコライフ倶楽部の「地球温暖化と省エネの授業」で梅坪台小学校に行った際、授業終了後、子どもたちに「感じたこと、やってみたいこと」を書いてもらいました。それを読んで、温暖化を知っている子が増えていることを実感し、「伝えたかったことが、伝わっている」と感動しました。

それから、ロンドンオリンピック。とくに「なでしこジャパン」のチームワークに感動しました。eco-T でも、個々の持ち味を活

かしつつ、チームワークを発揮できればと思います。

震災事故後、国民の関心が急に高まった原発問題も気にかかります。新聞や本、資料の切り抜きをしていますが、すでに段ボール一杯です。情報の正しさを見極めるのは難しい、と感じています。

Q. 河合さんが、ほっと一息つける場所は？

A. やっぱり自宅です。一日が終わって入浴する時、ほっとします。お風呂のお湯は、昔は自分が入ると溢れるほど、いっぱい張っていましたが、今は省エネで半分くらいお湯を張るようになりました。

もう一つは、在所（実家）の風景。庭の一角には、昔登って遊んだシンボルツリーのグミの木があります。耕地整理されていない昔の風景が残っているのを見ると、心が休まる気がします。

Q. eco-T やエコ人に、ひとことお願いします。

A. エコ人も eco-T も同じものというか、一体だと思っています。当面、エコ人は eco-T に集中し、団体の成長後、他の活動を広げていくのだと認識しています。eco-T は、毎年新しい優秀なインタープリターが入り、うまく回転しています。これは大変喜ばしいことですね。インタープリターが自ら学び、活動することを重視する等、事務局はよく考えてマネジメントしていると思います。しかし、ボランティア集団というものは非常に脆弱な一面を持っているのも事実です。今後とも、うまく活動をまとめていって欲しいです。

それから、eco-T の展示室はインタープリターを介して伝えるつくりになっていますが、「語りかける展示」（＝見るだけでもわかる展示）をもう少し考えてもよいのでは、と思います。

（会員突撃チーム：野武審・岩月桂子）

ご自身の体験に加えて、客観的な情報収集や分析、常に学び続けられる姿勢に心強さを感じました。ところで、養殖アユと天然アユの見分け方は、「おなかを開いて中が白いのは養殖、黒や青みがかった色の物は天然」だそうです。天然のアユは、川の藻などを食べているので内臓が黒っぽくなるのだとか。楽しく語ってくださるアユ釣りのお話に引き込まれながら、花より団子でしょうか・・・食欲が湧いてきてしまいました（笑）

アユ食べて、川に親しむ「感謝祭」

とよたのまちネタ紹介　第７回

９月１日（土）、豊田大橋の東岸（豊田スタジアムの横の河原）で第４回「矢作川天然鮎感謝祭」が開催されました。塩焼きの無料配布ありということで、親子連れを中心に多くの人でにぎわいました。

開会宣言に続いて、アユのつかみどりコーナーが始まると、子どもたちが奮闘。つかまえたアユを係のおじさんに渡すと、竹串をさして、塩をふってもらえます。それを炭火の近くに立てて、じっくりゆっくり焼き上げます。子どもたちは川に入って遊んだり、焼けていく様子をじっと見つめたりした後で、そのアユを食べます。

竹串をさされたアユを見て、「お～っ、アユから血が出てきた～っ」と騒ぐ子もいます。生きている魚を手づかみして、それを目の前で焼いて食べるのは、子どもたちにとって、とてもいい体験だと思いました。自分が「命を食べている」ことを実感しやすい、というか。

その後は、大人にも、アユの塩焼きの無料配布です。一人２尾ずついただきました。炭火焼きで、おいしい♪　アユ飯やアユ雑炊の販売もあります。そして、おなかが満たされたころ、矢作川のアユの調査グループから、アユの一生や調査結果についての発表がありました。

アユの命は１年限り。産卵を終えると死んでしまいます。毎年、孵化したばかりの状態で矢作川を下るアユの数は推計３～５億尾。遊泳力の弱い稚魚は、川の流れに身を任せるしかなく、雨で川の水量が多い年には、無事に海までたどり着く比率が高いそうです。海で少し育った後、翌年矢作川を遡上するアユは、水源橋のところで 50～300 万尾。そのうち、釣りやヤナから食用に上がるのは 5 万尾程度（豊田市民８人に１尾くらいですね）。上流の大きなダムは遡上できないため、水源橋まで登ってきたアユの一部を捕獲して、トラックで上流の名倉川や上矢作まで運び、放流しているそうです。

このイベントの主催は、矢作川漁協等をはじめとする実行委員会。「天然アユの味を通して、市民に矢作川への関心を高めてもらおう」という趣旨で開催。もともと年１回開催されていた、天狗堂（釣り具屋さん）による「矢作川王鮎釣り大会」というイベントにタイアップする形で始められました。

９月１日の朝、釣り大会の予選が開催され、その釣果はすべて無料配布の塩焼きとして感謝祭で振る舞われます。感謝祭に駆けつけた大勢の人たちがその塩焼きを食べて見守る前で、釣り大会決勝がスタート！　腕利きの太公望たちが、思い思いのポイントへ竿を入れます。

まだまだ残暑の厳しい日でしたが、感謝祭会場は豊田大橋の日陰になっていて、川の流れのおかげで少し涼しく、気持ちよく過ごせました。矢作川の命をおいしく食べると、地域への愛着が高まる気がします。来年も開催される（？）と思いますので、ぜひ地元矢作川の天然アユの味をお楽しみください。　（小泉達也）

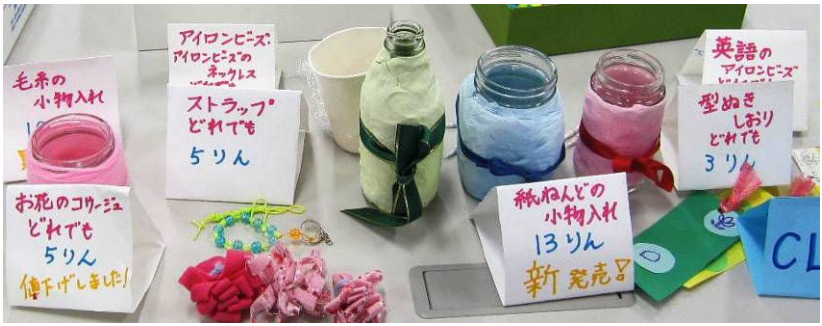
4年目を迎えた「エコットキッズタウン」

今年のキッズタウンは、鞍ヶ池公園近くの豊田市交通安全学習センターをお借りして、７月 31 日（火）～8 月２日（木）の３日間の開催でした。会場が豊田市の中心部から外れていることなどを考えると、今年は少なめの参加者でゆったりペースかな、と予想していました。ところが、ふたを開けてみれば、大賑わい。仲良しの子どもたちが１台の車で乗り合わせて来たり、シャトルバスに乗ってくるグループの姿も多く見られました。

タウンの住民は、昨年より少し多い約 710 名（３日間）。まちの受付となる「役場」も混雑しましたが、「子ども職員のていねいな仕事を見て、みんな静かに順番を待ってくれていた。感心した」という大人スタッフの声もありました。

保護者が唯一、タウンに入ることができる「町ツアー」も、毎回大盛況。子どもツアコンの案内で「声をかけずに見守ってください」というお約束のもと、にこにこと見学してくださいました。

今年、商店街のお店は、１日２回の入れ替え制にしました。お店を



出したがる子どもたちが多いので、出店の機会を増やすための工夫です。色彩豊かな手づくり商品がズラリと並ぶお店も・・・。

警察官は男の子に人気の職業。真剣な表情で調書（？）を作成中。一方、女の子に人気の保健センターでは、視力検査もやっていました。どこまで見えるかな～？

子ども実行委員15名は、それぞれの職場でも中心になって、いきいきと働いてくれました。大人スタッフがささやかに準備した町が、子どもたちの力でくるくる回り、面白さを体験する子が増えていくのは私たちの喜びです。

無事に開催できましたのは、センター職員の皆様、保護者の皆様のご理解・ご協力のおかげです。ありがとうございました。（長嶋一枝）

●主な活動記録一覧（6/1～8/31）

６月

１日	エコット再オープン
３日	エコットフェスタ 2012（緑のカーテン PR も）
６日	eco-T 運営会議
13 日	第 37 回（2012 年度１回）理事会

７月

４日	第 38 回（2012 年度２回）理事会	
６日	eco-T 運営会議	
８日	かえっこバザール in トヨタ EX 会（カバハウス）	→ P.5 参照
14 日	かえっこバザール開催（井郷交流館サマーフェスタにて）	→ P.5 参照
21 日	第４回通常総会 映画『幸せの経済学』上映会＆意見交換会（福祉センター）	→ P.2 参照
21 日	団体ホームページ公開＆団体パンフレットリニューアル	
28 日	とよたまちなか打ち水大作戦（協力）	
31 日	エコットキッズタウン 2012（交通安全学習センター、～8/2）	→ P.12 参照

８月

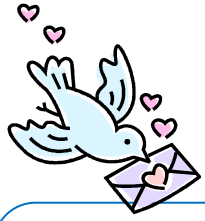
３日	スマイル 085 の日　イベント出展（市民文化会館）	
８日	eco-T 運営会議	
18 日	かえっこバザール in eco-T	→ P.5 参照
21 日	くらしの環境学習推進事業　先生との意見交換会	
22 日	eco-T 親子バスツアー（三州足助屋敷＆すげの里）	
23 日	環境モデル都市シティプロモーション　プロポーザル選考会	
25 日	緑のカーテン収穫祭（試食会＆意見交換会）	→ P.6 参照
28 日	豊田東高校教員の職場体験受入（～30 日）	
30 日	第 39 回（2012 年度３回）理事会	

●おすすめイベントの紹介＆参加者募集（9～11 月）

日時	内容など
3回シリーズですが、単発受講も OK です！ **参加無料♪**	**[未来へのエコットーク 2012]** これからの食糧やエネルギーのこと、世界から見た日本のこと、命をはぐくむ農業について最先端で活躍中のゲストをお呼びし、「私たちのくらし」とのつながりをお話ししていただきます。 ●対　象：どなたでも（子ども連れ参加 OK、託児なし） ●定　員：50 名（先着順） ※16：30 まで講師とのティータイムあり（参加自由）
9 月 16 日（日） 13：30～15：30	第１回　「食」でできる省エネ 講師：堀 孝弘さん（NPO 法人環境市民 事務局長）
10 月 21 日（日） 13：30～15：30	第２回　今、世界でおきていること 講師：鬼丸 昌也さん（NPO 法人テラ・ルネッサンス 理事）
11 月 11 日（日） 13：30～15：30	第３回　おいしい野菜を食卓へ 講師：松本 直之さん（松本自然農園 代表）

お問合せ・お申込みは「eco-T 事務局」まで

TEL：0565-26-8058



えこびとからのお知らせ

●団体ホームページ（立ち上げました）
●団体パンフレット（リニューアル♪）
●団体事務所（豊田市駅前、参合館の裏）

試行錯誤しながら、
より良い形を模索したいと思います。

えこびと会員メーリングリスト、始めます♪

この秋、とよたエコ人プロジェクト会員専用のメーリングリストを開始します。入会申込書にメールアドレスをご記入いただいたみなさんは全員、ひとまずこちらで登録させていただきますので、ご了承ください（脱退は自由です）。アドレスの変更や新規に取得された方は、ぜひご連絡ください。

エコ情報に限らず、豊田市周辺のさまざまな情報や気になることなど、みんなが気軽に発信できるようにしたいと思っています♪

会員継続のお手続きをお願いします ＆ 新規会員募集中！

６月１日からエコ人の 2012 年度が始まりました。本年度もよろしくお願いいたします。

現在の会員数は
59 名、2 団体です

正会員　10,000 円（議決権あり）
賛助会員　一般　1,000 円/口
学生　500 円/口
営利団体　10,000 円/口
非営利団体　3,000 円/口

会員のみなさま（2012 年 9 月 5 日現在）　囲みは新規会員

●正会員　青山克巳さん、石村正行さん、岩月桂子さん、河合志郎さん、栗野理絵さん、小泉達也さん、小泉由美さん、小泉洋子さん、後藤康江さん、坂口明子さん、坂本竜児さん、杉浦清美さん、杉山佐由紀さん、田上治さん、谷口功さん、谷口陽子さん、種子田實郎さん、中川恵子さん、長嶋一枝さん、野武審さん、萩原喜之さん、福間陽子さん、伏田治敏さん、松浦貴子さん、南谷五郎さん

●賛助会員　赤坂洋子さん、芦辺由岐子さん、粟津銀治さん、石川真美子さん、板倉三枝子さん、井藤伸比古さん、伊吹あゆみさん、奥村紀美さん、落合ひろ恵さん、加藤由見江さん、神谷ゆう子さん、後藤美代子さん、澤田高和さん、山東光子さん、杉浦輝雄さん、種子田雅子さん、法島準子さん、長谷川広一さん、早川美代子さん、伴在慶一郎さん、本多慶子さん、本田昭二さん、水野雄介さん、皆本直樹さん、宮島芳枝さん、村井孝一さん、村瀬久子さん、村松里子さん、室武亨さん、安宮勝之さん、山内幸恵さん、山口重春さん、山中由紀さん、吉田香さん、アグロ・プエルタ、特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会

編集後記　今号のキーワードは、アユと収穫祭（感謝祭）になりました。なんだか季節感があって、いいですよね！？　暑過ぎたり、寒過ぎたりと「過ぎる」のは困りものですが、秋らしさ、冬らしさという「らしさ」は感じていたいなあ・・・というのは、贅沢なお願いでしょうか？（小泉た）

発行・編集　NPO 法人 とよたエコ人（びと）プロジェクト

2012 年 9 月発行

TEL　0565-50-5684
FAX　0565-50-5568
メール　info@t-ecobito.jp
URL　http://t-ecobito.jimdo.com/　←活動ブログも、理事ブログも♪
〒471-0025　愛知県豊田市西町 1-88　カニックビル５階

私たちは豊田市から委託を受けて、環境学習施設 eco-T（エコット）を運営しています